

東南置賜地区の県立高校再編整備計画（骨子案）についての意見聴取の結果

1 目 的

東南置賜地区の県立高校再編整備計画（骨子案）について意見聴取し、計画策定に向けた検討の参考にする。

2 概 要

- (1) 対 象 自治体、教育関係者、学校関係者及び地域産業界等 26 名
- (2) 聴取期間 令和元年 8 月 28 日（水）～11 月 21 日（木）
- (3) 聴取方法 高校改革推進室職員が、対象となる方を訪問し意見を伺う。

3 聴取事項

- (1) 東南置賜地区の県立高校再編整備計画（骨子案）について
 - ① 令和 7 年度の高校配置について
 - ② 定時制（夜間から昼間への移行、工業科から総合学科への改編、独立校舎）について
 - ③ その他
- (2) その他

4 聴 取 者

（敬称略）

No.	氏 名	役 職 名	備考
1	中川 勝	米沢市長	自治体
2	白岩 孝夫	南陽市長	
3	寒河江 信	高畠町長	
4	原田 俊二	川西町長	
5	小嶋 彌左衛門	山形県立米沢興譲館高等学校同窓会長	関係校同窓会
6	竹田 眞知子	山形県立米沢東高等学校同窓会長	
7	川野 勲	山形県立米沢工業高等学校同窓会長	
8	鈴木 陽市	山形県立米沢商業高等学校同窓会長	
9	渋谷 佐輔	山形県立置賜農業高等学校同窓会長	
10	殿岡 和郎	山形県立南陽高等学校同窓会長	
11	高橋 正人	山形県立高畠高等学校同窓会長	地元産業界
12	吉野 徹	米沢商工会議所会頭	
13	神棒 久志	南陽市商工会事務局長	
14	青木 英晴	高畠町商工会事務局長	
15	寒河江 輝文	川西町商工会長	
16	木村 敏和	J A おきたま代表理事組合長	高等教育機関
17	飯塚 博	山形大学工学部学部長	
18	鈴木 道子	山形県立米沢栄養大学長	
19	栗原 裕俊	米沢中央高等学校長	私立高校
20	九里 廣志	九里学園高等学校長	
21	加藤 公一	米沢市立第三中学校長	中学校長代表
22	安藤 淳	南陽市立宮内中学校校	
23	川野 泰裕	米沢地区 P T A 連合会長	P T A 代表
24	嶋貫 憲仁	東置賜地区 P T A 連合会長	
25	小松 正義	白鷹町立白鷹中学校教諭	教員代表
26	猪俣 幸一	山形県立米沢興譲館高等学校教諭	

5 意見の概要

(1) 東南置賜地区の県立高校再編整備計画（骨子案）について

① 令和7年度の高校配置について

<B案賛成>

(専門学科高校の統合)

- A案の普通科と商業科の統合よりも、B案の専門学科を統合して産業高校とした方が学校の特色が明確となる。
- 産業人材の育成のためにも、工業科と商業科を併置する産業高校とした方が良い。普通科の米沢東高校と商業科の米沢商業高校を統合するA案にはメリットが感じられない。
- 産業高校として工業科と商業科をまとめた方が、特色を出しやすく学校経営もしやすい。米沢東高校と米沢商業高校を統合するA案では厳しい。かつて南陽高校も普通科と商業科の併設校だったが、学校の特色が分かりにくい感じであった。
- 専門学科高校として特色を出すためには商工一体とし、時代にマッチした将来の地域産業の担い手を育成する高校とするべきである。
- 普通科、商業科併置のA案より、工業科、商業科併置のB案が望ましい。

(米沢工業高校の敷地・校舎活用)

- 米沢工業高校の素晴らしい校舎、広大な敷地は活用すべきである。現在ある1学年5クラスだけではもったいない。
- 米沢工業高校の立派な校舎、広大な敷地は活用しなければならない。
- 米沢東高校の校地は狭く、校舎は古いので米沢東高校への統合は難しい。

(総合選択制の導入)

- 現在は、ものをつくるだけでなく、付加価値をつけて販売することも求められているため、所属する学科以外の内容も学習できる総合選択制のシステムは良い考えだ。
- 複数学科を併置する産業高校において、所属学科の学習を重点的に行いながらも、他学科の学習も可能となる総合選択制を導入すれば、視野が広がるだけでなく、将来の職業選択の幅が広がる。

(長期的に普通科高校の統合)

- 少子化が進行する中で、米沢興譲館高校を単独校として存続するのは難しく、米沢東高校との統合を視野に入れて計画を進めることは理解できる。
- 米沢興譲館高校と米沢東高校は、分離する前は一緒の高校であったこともあり、長期的にこの2校が統合するB案の方が、同窓生や地域住民から理解が得られる。また、進学を志望する生徒が大多数である普通科高校の統合の方が良い。
- B案に賛成する。米沢興譲館高校の現在の立地場所は、置賜地区にとって大きな問題となっている。長期的な再編で、進学中心の普通科高校と産業高校の2校配置とし、米沢興譲館高校と米沢東高校を統合する際は、市街地に新校舎を建築すべきである。移転には敷地の問題もあるが、現在の米沢東高校等の敷地に加え、隣接する興譲小学校の活用も考えられるのではないか。
- 米沢工業高校と米沢商業高校が統合するB案が妥当であり、米沢産業高校（仮称）は、工業科4学級、商業科2学級の6学級とすべきである。また、米沢興譲館高校と米沢東高校の統合は、令和17年度では遅すぎる。早期の統合により、進学校の質が高められるのではないか。

(長期的に特色が明確な高校配置)

- 長期的にみれば、高校の特色が明確となるB案の方が良いのではないかと。
- 工業科高校と普通科高校が統合するA案よりも、令和7年度に専門学科高校を統合し、長期的に普通科高校を統合し、特色が明確な2校配置となるB案の方が良い。B案の産業高校に農業科も設置されれば、設置が検討されている専門職大学への進学も考えられる。
- 長期的に特色が明確な高校が配置されるB案に賛成する。学校規模や教員数が確保できるため、様々な専門的な学びが可能となり、中学生に対して、多様な選択肢を提供できる。

(長期的に3校配置)

- 長期的に米沢市内に4校配置となるA案では、少子化の進行により小規模化した場合、再び統合しなければならなくなる。3校配置で学校規模を確保し、長期間、安定した学校経営の面から見ても、B案の方が良い。
- 東南置賜地区の人口規模として、将来的に3校配置が好ましいのではないかと。
- 長期的に3校配置となり、配置される高校の特色が明確となるB案に賛成である。A案の4校配置では、長期的に各高校が小規模化することが予想され、4校の存続は厳しく、再度の統合が必要になってしまう。将来を見据えた再編整備が必要である。

<A案賛成>

- まちのにぎわいつくりの観点から、全日制の高校が市街地に残るA案の方が良い。
- 普通科志望の中学生の割合が高いという結果がアンケート調査からわかる。長期的再編により普通科高校が1校と想定されるB案よりも、普通科高校を統合せず長期的に普通科高校が複数配置されるA案の方が良い。もともと普通科志望であるが、商業科などに進学している生徒がいるのではないかと。
- 将来的に、米沢市内に普通科高校が2校配置となるA案に賛成する。中学生は普通科志向が高く、今後もこの傾向は変わらないだろう。普通科高校が1校となれば、幅広い層の生徒が入学することとなり、教員の対応が今以上に難しくなる。中学校における学習に取り組む姿勢や学力の面にも問題が生じる。
- 本県の工業関連企業を支える実践力のある優秀な人材を輩出し、広大な敷地と整った設備をもつ米沢工業高校は、単独校として存続すべきである。

<A案、B案に反対>

- 生徒減少による合理化や効率だけを考えた、現在のA案、B案のみの統廃合には強く反対する。

② 定時制(夜間から昼間への移行、工業科から総合学科への改編、独立校舎)について

<昼間への移行に賛成>

- 夜間で学ぶ勤労学生の減少や、不登校生徒の増加などといった現状を考えると、昼間定時制への移行は理解できる。
- 多様な生徒に対応し、実社会で活躍する人材を育成できる昼間定時制に賛成する。
- 時代の流れであり、昼間定時制への移行は賛成である。どの時間帯が良いかしっかりと検討して欲しい。
- 現在の夜間定時制では西置賜地区からの通学は困難であるが、昼間となれば進学が可能となり、中学生にとって選択肢が多くなる。また、米沢商業高校の跡地に設置されれば、駅からも近く通学に便利となる。

- 昼間定時制への移行には賛成であるが、どの時間帯の定時制にするかが重要である。定時制に通う生徒にとっては、全日制の生徒と違う電車に乗り、違う時間帯に登校するということが大事である。

＜総合学科への改編に賛成＞

- 総合学科への改編は必要であり、については、働きながら学ぶことができるという定時制高校の本来の目的を大事にして欲しい。

＜現状維持を求める意見等＞

- 昼に働きながら夜間定時制に通学している生徒も多いため、敢えて昼間定時制に移行する必要はない。昼間定時制よりも全日制で学んだ方が、生徒にとってメリットが多いのではないか。
- 昼間定時制移行、総合学科改編に反対する。校舎は全日制の校舎と共用すべきである。米沢工業高校定時制は、受検生が増加傾向で、地域のニーズは増えているのではないか。夜間定時制により、経済的に困窮した生徒に対して、安定的に就労を継続できる職場が確保できる。工業科であれば、全日制と校舎を併用したほうが良い。
- 少数の生徒に対応するために、独立校舎の昼間定時制を新たに設置する必要があるのか疑問がある。
- 敢えて昼間定時制の独立校舎を設置する必要はない。特別な支援を要する生徒に対しては、通級による指導を導入するなどにより対応することができるため、昼間定時制の役割を、全日制の高校で担うことが可能である。
- 独立校舎へ設置するならば、昼間だけでなく夜間も設置すべきである。

③ その他

＜中期的再編に係る意見等＞

（再編整備全般）

- 少子化に対応した高校再編は仕方がない。
- 伝統ある高校の存続に対する市民の思いは強いが、生徒の教育環境の充実を第一に考えて再編整備をすべきである。
- まちの活性化も考えて再編整備を検討して欲しい。
- どの高校も伝統があるため、再編を進めるのは難しい。
- 少子化に対応するための単に数合わせの高校再編であってはいけない。

（専門学科の在り方）

- 普通科のみを重視し、農業、工業、商業の専門学科を軽視すれば、地域産業の担い手がなくなる。このまま若者の流出が進行すると、地域社会の維持が困難になる。
- 農業・工業・商業の産業教育における人材についての置賜地区や山形県の将来のビジョンを検討した上で学校配置や募集定員を決定すべきである。
- 専門学科であっても、基礎学力を身に付けることが重要である。高校1年では基礎教育に力を入れ、2・3年で専門的な内容を学ぶカリキュラムにすれば良い。専門的な学びの充実には、土台となる基礎学力が必要となる。

（校名・同窓会）

- 米沢工業高校と米沢商業高校が統合の場合、歴史と伝統があり地域に親しまれている「米沢工業」の校名を残し、米沢工業高校同窓会の「鶴城工親会」を存続させて欲しい。

- 米沢工業高校と米沢商業高校の統合の際は、校歌や伝統をどのように継承するのか、同窓会も含めて検討すべきだ。

＜長期的再編に係る意見等＞

（再編整備全般）

- 統合などにより校名が変わったとしても、地域に1つは高校があることは大切である。
- 米沢市内に集中して高校が配置されれば、他の自治体から不満が出るのが想定される。
- 長期的に、米沢東高校、高畠高校、南陽高校を統合し、3校の特色を併せもった高校を米沢市外に設置すれば良い。米沢興譲館高校に進学できない生徒の受け皿となる。
- 若者を定着させるためには、子供たちに生まれ故郷に対する愛着を醸成する必要がある、地元の学校では地域に根差した教育を積極的に行っている。地元で学校が無くなれば、地域との繋がりが希薄になる。

（西置賜地区も含めた検討）

- 東南置賜地区と西置賜地区は相互に人の流れがあり、長期的な再編を考える際には、西置賜地区の再編を含めて検討しなければならないのではないかと。
- 西置賜地区からの入学者も多いため、西置賜地区を含めた検討が必要ではないかと。
- 長期的に、東南置賜地区が3校、西置賜地区に4校配置となれば不公平感も出てくる。将来的に、長井工業高校を米沢産業高校（仮称）に統合することも考えられる。

（米沢興譲館高校と米沢東高校の統合）

- 米沢東高校との統合となったとしても、米沢興譲館高校の名前は残して欲しい。
- 米沢興譲館高校と米沢東高校の統合により米沢東の校名が無くなり米沢興譲館となるのは寂しいが仕方がない。それほど「興譲館」という名には重みがある。
- 将来は、普通科高校の米沢興譲館高校と米沢東高校の統合も考えられる。
- 米沢興譲館高校と米沢東高校の統合により市街地に高校が無くなるのは寂しい。通学の利便性の面も考えて、文化施設に近い市街地に高校をつくって欲しい。
- 米沢興譲館高校と米沢東高校は、各校において特色ある取り組みを行っており、校風が異なる。2校が統合となった場合は、普通科の中に多様なコースを設けることが必要だ。
- 米沢興譲館高校と米沢東高校の統合により、幅広い学力の生徒が入学することになるため、統合校の学力レベルの低下を危惧する意見もあるが、コース制や習熟度別クラスの導入により問題はクリアできるのではないかと。
- 将来的に米沢興譲館高校と米沢東高校が統合することになると、学力的にやや低位な生徒も入学できる可能性が広がり、進学校としての役割を十分に果たせなくなるという懸念がある。
- 学力を有しリーダーシップのとれる生徒を育成するため、米沢興譲館高校は単独校として存続すべきである。

（産業高校の在り方）

- 将来的に、米沢産業高校（仮称）に農業科を併置すれば、6次産業化に対応した学びが可能となる。
- 長期的に産業高校に地区内の農業科も併置することも考えられる。
- 地域振興を考えれば、地元で活躍できる人材育成は大きな課題である。令和7年度に米沢工業高校と米沢商業高校が統合してできた米沢産業高校（仮称）に、長期的に農業科も併置することになれば、単にものをつくるだけでなく、生産、流通、販売の6次産業化に

についての学習も可能となり、産業の多様化に対応できる。一方で、米沢市内に統合された場合には、農業実習（体験）することは困難になる。

- 長期的に、B案の産業高校に農業科も設置されることが望ましいと考えるが、米沢工業高校から実習地までの移動距離が問題となる。
- 少子化の進行により、米沢工業高校と米沢商業高校が統合してできた米沢産業高校（仮称）に、将来的に、置賜農業高校に加え長井工業高校も統合しなくてはならない状況になるのではないかと心配している。西置賜地区から米沢市内の高校に通学するのは困難であるため、米沢産業高校（仮称）は、置賜地区全体から通学が可能な場所への立地が求められる。
- 複数の学科をもつ産業高校となった場合、地元産業を牽引する人材を育成するため、工業科や商業科の学級数の維持、拡充をお願いしたい。
- 工業高校と商業高校が統合して産業高校となるB案となった場合、高校と大学、米沢市、企業、商工会議所等と連携する魅力あるプロジェクトを推進して欲しい。
- 産業高校からも大学進学が可能となるカリキュラムとして欲しい。

（置賜農業高校・農業教育の在り方）

- 山形県は農業県であり、農業の後継者を育成するためにも、農業についてしっかり学ぶことができる高校をきちんと残して欲しい。
- これまで置賜農業高校が果たしてきた役割、農業の担い手の育成を考えると、置賜農業高校を存続し、「置賜農業」の冠は外さないで欲しい。
- 置賜農業高校を単独校として存続して欲しい。川西町民の置賜農業高校への思いは強く、教育だけでなく、町の活性化や町づくりのためにも必要である。
- 置賜農業高校は、地域と連携した紅大豆などの地域の特産品を商品化するなど、特色ある教育活動を実践している。置賜農業高校がなくなると、町の過疎化が進行してしまう。
- 将来的に、置賜農業高校を他校と統合してしまうと、農業の専門性や特色が薄れてしまい、将来農業科がなくなってしまうのではないかと心配している。農業の中核校として、置賜農業高校は存続すべきである。
- 置賜農業高校の施設、農業機械は非常に古い。施設の整備、最新設備を導入するなどして内容を充実し、中学生が興味・関心をもって農業を学びたいと集まってくるような魅力的な高校とする必要がある。
- 農業科の小規模化を懸念している。産業高校になった場合でも、各学科の配置には配慮してもらいたい。
- どのような人材を育てたいのか明確なビジョンを示した上で、農業科の在り方を考えて欲しい。
- 将来、農工商の3学科併設の産業高校となった場合でも、現在置賜農業高校で実践されている農業に関する専門的な学びは維持して欲しい。その際は、置賜農業高校の既存の実習農地や施設の移転は極めて困難であるため、現在の施設を活用することになるであろう。
- 置賜農業高校は、山形県の農業高校の最後の砦である。県の農業教育の拠点として位置付け、寄宿舎を整備するなどして、県内全域から生徒募集できないか。
- 農業に関する学びの拠点を、高校は置賜農業高校、大学は専門職大学として欲しい。
- 置賜農業高校に専攻科の設置を検討してはどうか。
- 置賜農業高校には果樹、野菜、畜産など多様な分野があり、3学級を維持して欲しい。
- 長期的な再編により、置賜農業高校を南陽高校に統合した場合、農業の実習の際は、マ

イクロバス等を利用して置賜農業高校の実習施設まで移動することも考えられる。以前、宮内高校に農業科があった時代は、実習のため約3km離れた梨郷地区の農地まで自転車で移動していた。

- 長期的に、南陽高校または高畠高校を拠点校とした場合、置賜農業高校の実習施設まで移動して実習しなければならず無駄が多い。
- 置賜農業高校が他校と統合する場合、移動困難な農場、施設、圃場の問題が生じる。遠隔農場として他校からバスで移動する案があるが、南陽高校や米沢市内高校から遠距離であり、農場までの移動にいずれも30分以上かかる。また、公共交通機関を利用して定期券で通学してくる生徒が多く、ある曜日だけ川西町の農場に通学することは困難である。

(南陽高校の在り方)

- 県内全ての市に高校が配置されており、長期的再編の米沢市外3校の統合の際には、南陽高校を中心とした再編として欲しい。
- 南陽市より人口の少ない長井市に2校、上山市に1校高校があり、南陽市からは高校を無くせない。高校が無くなってしまうと、教育、文化の灯が消えてしまう。様々な問題を乗り越えて、宮内高校と赤湯園芸高校を統合し南陽高校を開校した経緯がある。
- 南陽高校がなくなれば、人手不足が深刻である地元企業に就職する生徒がいなくなってしまう。
- 南陽高校がなくなれば、フラワー長井線を存続することができなくなるのではないか。

(高畠高校の在り方)

- 高畠高校は様々な活動で町に貢献しており、地元で高校が無くなることに抵抗がある。町の中に高校生の姿が無くなってしまふのは寂しい。
- 高畠高校が学級減となってしまうのは残念であり、現在行われている高校教育の質が担保できるのかを心配している。
- 高畠町の食品会社と連携しながら、高畠高校に食に関連する新たな学科を設置してはどうか。総合学科に農業に関する系列の導入も考えられる。
- 米沢市外の3校の長期的な再編では、立地場所が生徒の通学に便利である高畠高校を、米沢市外の高校の拠点校とすれば良い。

<小規模校の在り方>

- 他県では、高校を地域振興の核として、町おこしのために利用することが多くなっており、高校教育の在り方についての議論が希薄になってきている。自治体が、地域振興のため小規模校の存続を望むのであれば、町立高校への移管も考慮に入れなければならない。
- 小規模校の良い点もあるが、規模によっては教員数や科目開設などの点で様々な弊害が出てくる。教育環境の充実を図るためにも、ある程度の学校規模は必要である。
- 教育活動が限定されてしまうため、小規模校の存続は望ましいことではない。他地域から生徒が集まるような高校の特色を明確にすることが必要である。小規模校をただ存続するだけでなく、しっかりした目的をもって配置すべきである。
- 町は存続に向けて頑張っているようだが、荒砥高校と小国高校の存続が心配である。
- 島根県の隠岐島前高校のように、小規模校であるが地域と連携して魅力化を図り生徒を確保しているケースもある。置賜農業高校でも魅力化を図り、県外からの生徒募集や国外からの研修生の受け入れを行うなど、新たな学校モデルを検討すべきではないか。

＜私立高校との関係＞

- 米沢市内の2校の私立高校への配慮も必要である。
- 私立高校は入学定員の削減を行っていないため、公立高校への入学者だけが減少している。公立高校のみが入学定員の削減を行っているこの流れが本当に適正なものなのか、県全体で検討しなければならない。
- 公私の比率を加味しながら検討して欲しい。

(2) その他

＜併設型中高一貫教育校の設置＞

- 令和7年度までの中期的な再編では無理かもしれないが、置賜地区にも中高一貫教育校が必要である。設置校が米沢興譲館高校であれば、西置賜地区を含めた置賜地区全体の合意が得られる。
- 米沢市への中高一貫教育校の設置を検討しても良いのではないかと。設置場所としては、市街地にある米沢東高校の立地場所への設置が望ましい。置賜地区に1校あっても良い。
- 米沢市が設置について要望したが、関心の高い保護者もあり、今後検討すべきである。
- 米沢市が要望している併設型中高一貫教育校を設置する場合は、置賜全体から進学が可能となるよう街の中心部への設置が必要である。設置となれば、他の中学校への影響、小学校6年生の担任への負担など様々な問題が想定される。
- 米沢市内の中学校の統廃合と同時期に、中高一貫教育校を設置するのは難しい。
- 置賜地区においても中高一貫教育校について話題となっているが、小学生から受検を意識させてしまうだけでなく、既存の公立中学校への影響を心配している。

＜高校立地・通学手段＞

- 現在の米沢興譲館高校の立地は、通学に非常に不便であり冬季は特に厳しい。米沢市外の市町からは通学できないという批判もある。将来的に、校舎の市街地への移転を是非検討して欲しい。米沢興譲館高校や米沢市だけの問題ではなく、地区全体の課題である。
- 米沢興譲館高校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け頑張っているが、郊外への移転により、西置賜地区や東南置賜地区の北部など米沢市外からの通学が困難となり、置賜地区全体から優秀な生徒を集めることが難しくなっていると感じている。現在は、保護者の送迎が主な通学手段となっているが、市街地への移転により、公共交通機関での通学が可能となり、米沢市だけでなく、置賜地区全体にとってもメリットが生まれる。
- 米沢興譲館高校は最寄りの駅から遠いため、高畠町や南陽市では、通学手段が確保できず進学を諦める生徒もいる。通学手段の有無は、高校選択する際の大きなポイントとなる。
- 米沢興譲館高校や米沢工業高校は郊外に立地しているため通学は不便である。西置賜地区から米沢興譲館高校への通学は困難であるため、進学を諦めている生徒もいる。郊外に立地している高校と最寄りの駅にスクールバスを運行するなど、通学手段の検討が必要である。
- 県立高校もスクールバスの運行ができないだろうか。バスなどの公共交通機関の便数が少なくなっており、高校への通学手段の確保に苦慮している。
- 現在、米沢興譲館高校、米沢工業高校はもちろん、米沢東高校であっても、親の送迎が必要とする生徒がいる。米沢興譲館高校に行ける学力があっても、家族が送迎できる恵ま

れた環境にある子供しか通えないことは大きな問題である。高校は通いやすい場所に設置すべきである。

- 米沢市内への通学の不便さやフラワー長井線運賃の高騰により、通学バスを出す米沢中央高校への進学者が大きく増えている。しかし、「通学も教育のうち」だと考えると、通学バスによって公共性や社会性を養う機会が失われてしまうため、通学バスの導入には慎重であるべきと考える。
- 置賜地区において中心的な高校である米沢興譲館高校は、必ずしも米沢市内にある必要がない。置賜地区全域からの通学の便の良い場所に設置すべきである。
- 米沢興譲館高校と米沢工業高校が郊外へ移転したため、市街地のにぎわいがなくなったという声を聞く。
- 米沢興譲館高校への通学が不便である。山形方面からの通学者が、米沢駅で乗り換えすることなく南米沢駅まで来ることができるようダイヤ改正をJRに要望してはどうか。

＜中学校における職業教育＞

- 置賜農業高校や米沢中央高校の1年生を対象に、地元の産業や企業を知り興味関心を高め地元就職に繋げることを目的として、様々な職業を体験できる「WAKU WAKU WORK」が実施されている。中学校の進路指導の中でこのような職業教育をすれば、専門学科高校への進学生徒の増加に繋がるのではないか。
- 中学生の普通科志向が高い理由の一つは、中学校において職業教育が十分に行われていないこともあるのではないか。中学校の教員が、専門学科高校についての理解を深めることが必要である。

＜大学等との連携＞

- 今後、専門学科高校からも大学等への進学ができるよう更なるカリキュラムの充実と進学指導体制の整備が必要である。
- 米沢工業高校は、八幡原工業団地近くに移転し、様々な刺激を受けている。
- 山形大学工学部が、米沢興譲館高校、小国高校、米沢工業高校、山形工業高校、酒田光陵高校、鶴岡工業高校と連携協定を結び、様々な連携を行っている。大学と高校の繋ぐ人材の育成が重要である。

＜その他＞

- 市街地に学校があり、米沢市の歴史に浸りながら勉学に励むことが理想である。
- 市街地の活性化のためには、市街地に学校や学びの施設が必要である。
- 教育の質を高めるためには、適度な競争が必要である。今後も、県立高校の定員割れが続けば、中学生の学習に向かうモチベーションの低下に繋がり、高校においても充実した教育活動ができなくなるのではないかと懸念もある。
- 生徒数減に伴い、教員数を減らすのではなく、現状維持を図りながら、現場の教育環境整備の充実を図ることが必要である。総合選択制を導入しても、教員不足や出張の多さで授業が成り立たせることに苦慮している。
- 県全体の高校教育や方針について話し合いが十分に行われておらず、私立高校と公立高校の役割分担が明確化されていない。
- 村山地区の県立高校や、独自のカリキュラムを編成して学校の特色を明確にしている私立高校への進学者が増加している。県立高校においても各校の特色を明確にすることが求められている。